

平成 29 年 11 月 28 日

HP をご覧頂いている皆様へ

全国米穀販売事業共済協同組合

「米の流通及び価格の安定についての要請」について

米の需給が急速に締まり、米価の高騰、市場の混乱、米消費への悪影響
等が懸念されます。

このため、本組合では、要請書を齋藤農林水産大臣宛に提出しました。

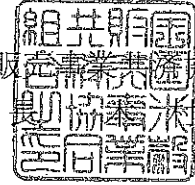
要請書（写）を次頁に掲載しておりますので、ご覧下さい。



29 全米販(業務)第75号
平成29年11月28日

農林水産大臣 齋藤 健 殿

全国米穀販売事業共済協同組合
理事長 良



米の流通及び価格の安定についての要請

平素は、本組合の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

最近における米穀の流通及び価格の状況についてです。米の生産調整については、3年連続での超過達成の見込みとなっております。米の需給は、急速に締まり、平成30年6月末の在庫は、平成23年の東日本大震災時及び翌24年の在庫水準をも下回りかねません。

このような状況にあつて、JA及び全国農業協同組合連合会だけではなく、その他の集荷業者にあつても集荷が進んでおらず、米卸売業者への提示数量は、前年の2割減又は半分といった水準にとどまっております。このままでは、本組合員とお取引先様との信頼関係を損ねかねません。

また、本年の米穀の取引価格は、前年に比し1割方上昇しており、とりわけ業務用米にあつては、生産調整のミスマッチもあつて銘柄によっては昨年比で1割強の価格上昇となったのも見られるところです。

このような集荷及び価格の状況は、平成30年産米について生産者に誤ったメッセージを与え、市場は混乱するとともに、米消費にも悪影響を及ぼす懸念があります。

米流通市場の安定を図るためには、米需給についての先行きの不透明感、不安感を解消することが必要であります。つきましては、下記の通り要望を致しますので、格段のご高配をお願い致します。

記

1. 平成30年産米の需給フレームの作成に当たっては、平成31年6月末在庫水準について、過去の平均的な在庫水準を採用する等、余裕ある対応をすること。
2. SBS入札の実施については、例えば前倒し実施する等の機動的な対応を行うこと。
3. 米の需給状況に関し、仮に不測の事態が生じる場合には、政府備蓄米の売渡しを含め、先行きの不透明感、不安感を解消する対応を行うこと。

以上